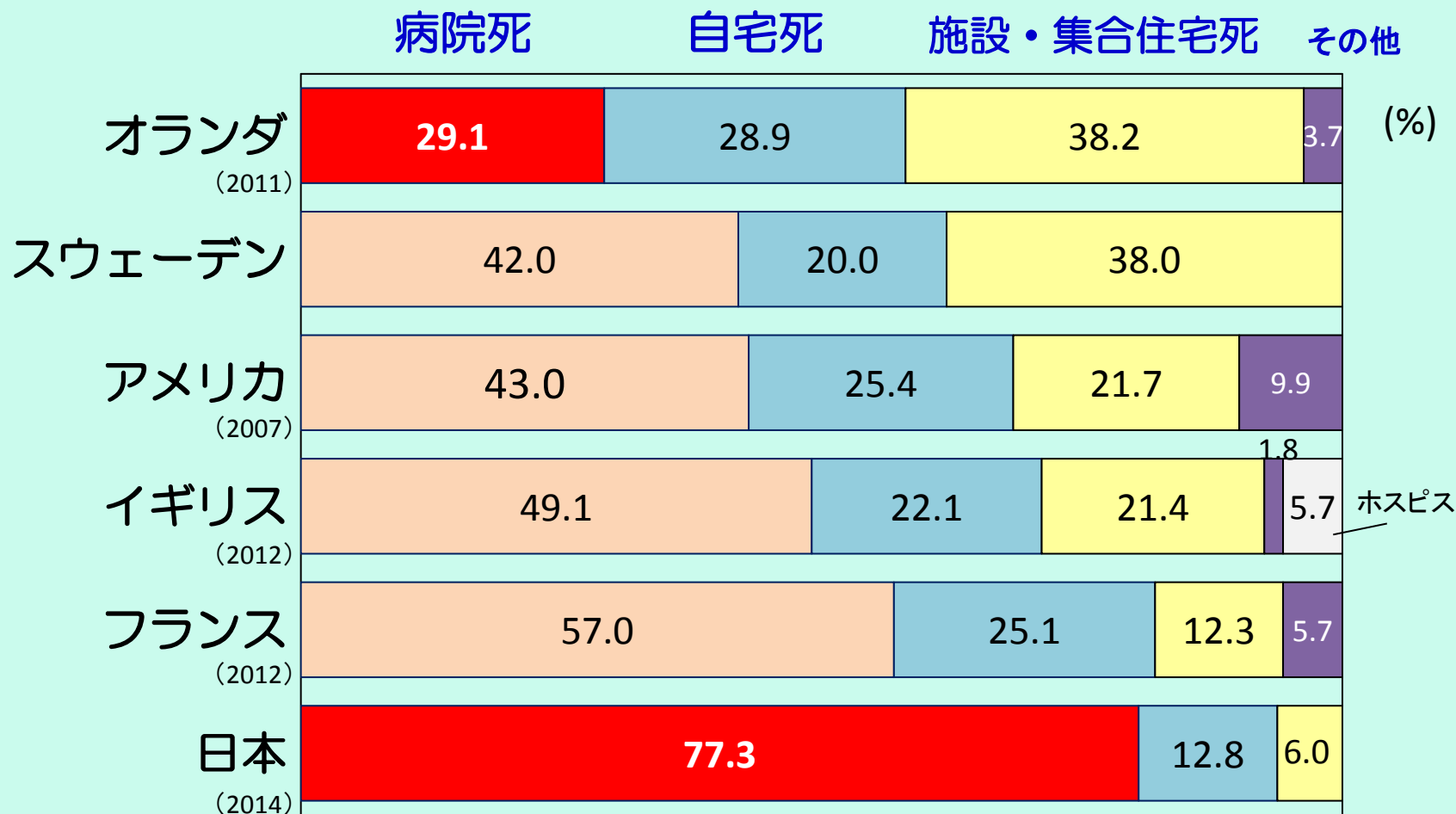


オランダ

家庭医が地域ケアを支える
認知症の人に農場ケア
集合住宅で個室ユニットケア

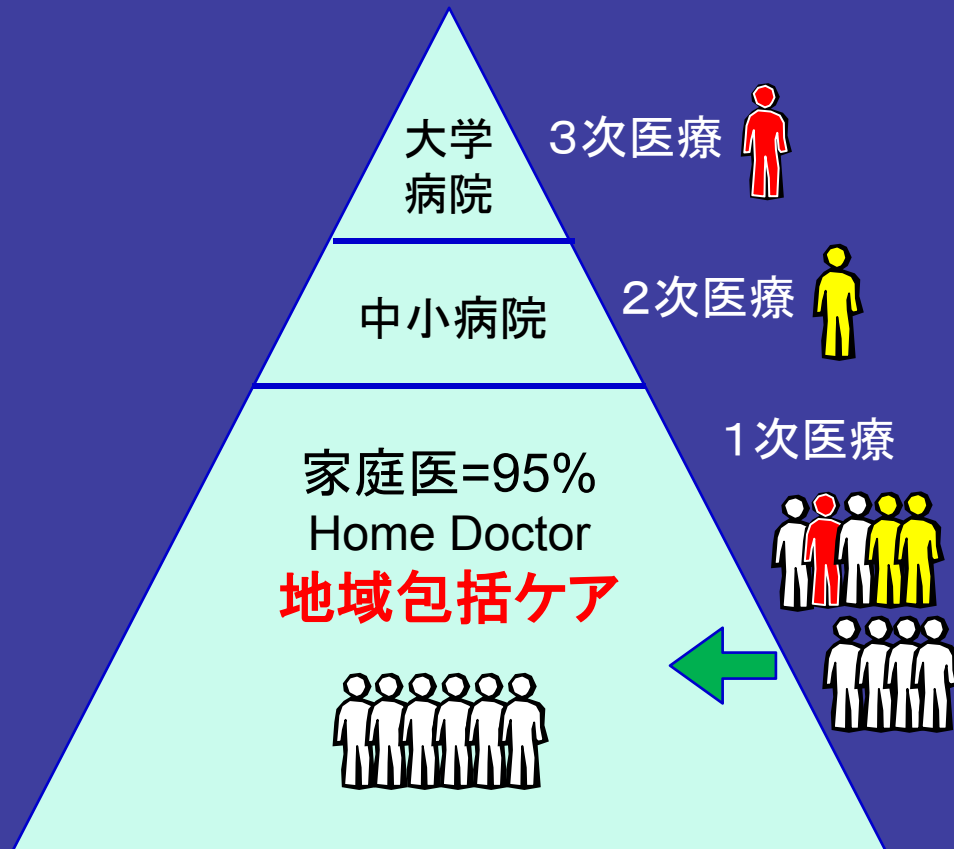
病院死が最も少ないオランダ



在宅医療、在宅介護が充実 → 少ない病院死

家庭医が地域ケアの土台

英国、オランダ、デンマークでは登録義務
ドイツは選択性だが90%の国民が登録



- 人口82万人のアムステルダムで500人
- 人口1700万人のオランダ全体で7000人
- 96%の患者対応でその医療費はわずか4%

アムステルダム市内の診療所。
ロブ・リス氏の医師の事務所のような診察室



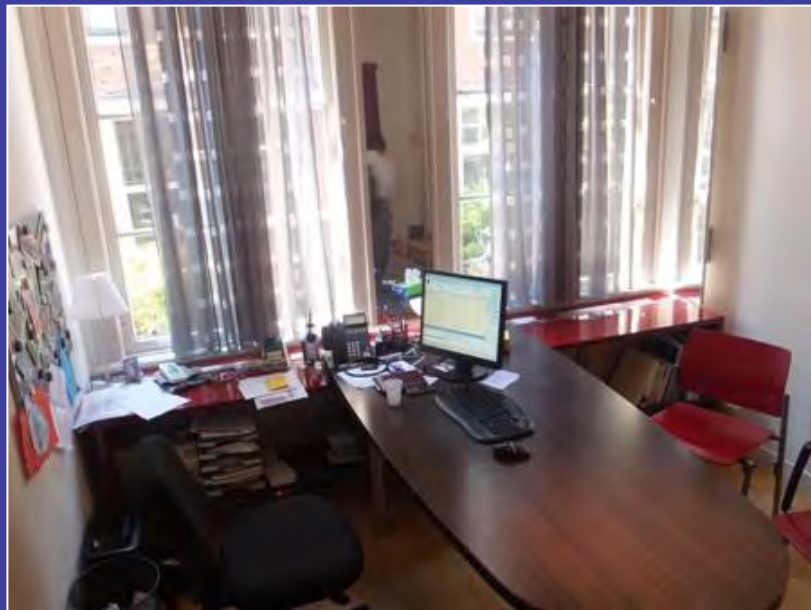
- 2～3千人の住民が1人の家庭医に登録
- 家庭医は高度な専門医
- 国民は全て家庭医に登録
フリーアクセスではない
- 利用者は家庭医をいつでも替えられる

家庭医が地域ケアの土台

診療所は普通の
中層住宅の1階にある

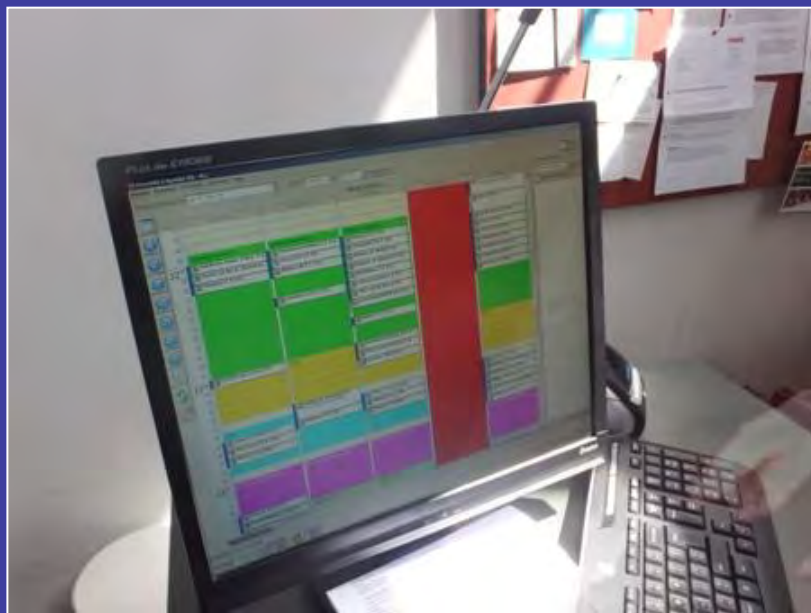


診療所の前はすぐ運河。
自転車族が通行

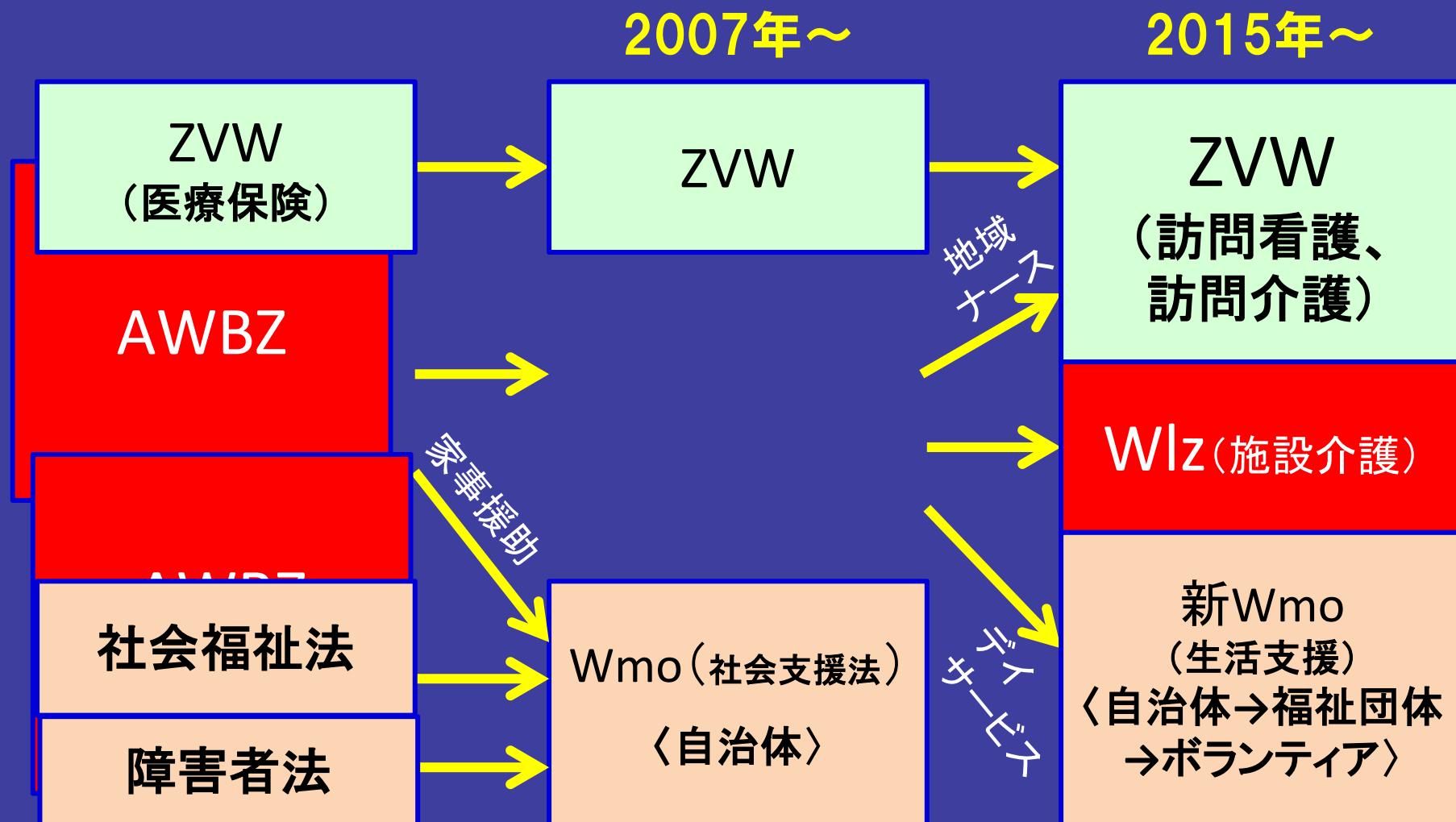


ロブ・リス医師の同僚の女医の診察室。
病院とは全く違う雰囲気だ

パソコンで情報共有が進んでおり
「休暇中は同僚医師が交代」



国から地域へ担い手と権限が移行 ——自治体、NPOの独自色高まる——



「施設・住宅」の定員は高齢者の10%

- **ナーシングホーム(特養)**

20m²前後の個室、ケアを一体的に提供

- **ケアホーム**

簡易キッチンと、バス、トイレ付き、25m²前後
一部介助が必要だが自立生活できる入居者。

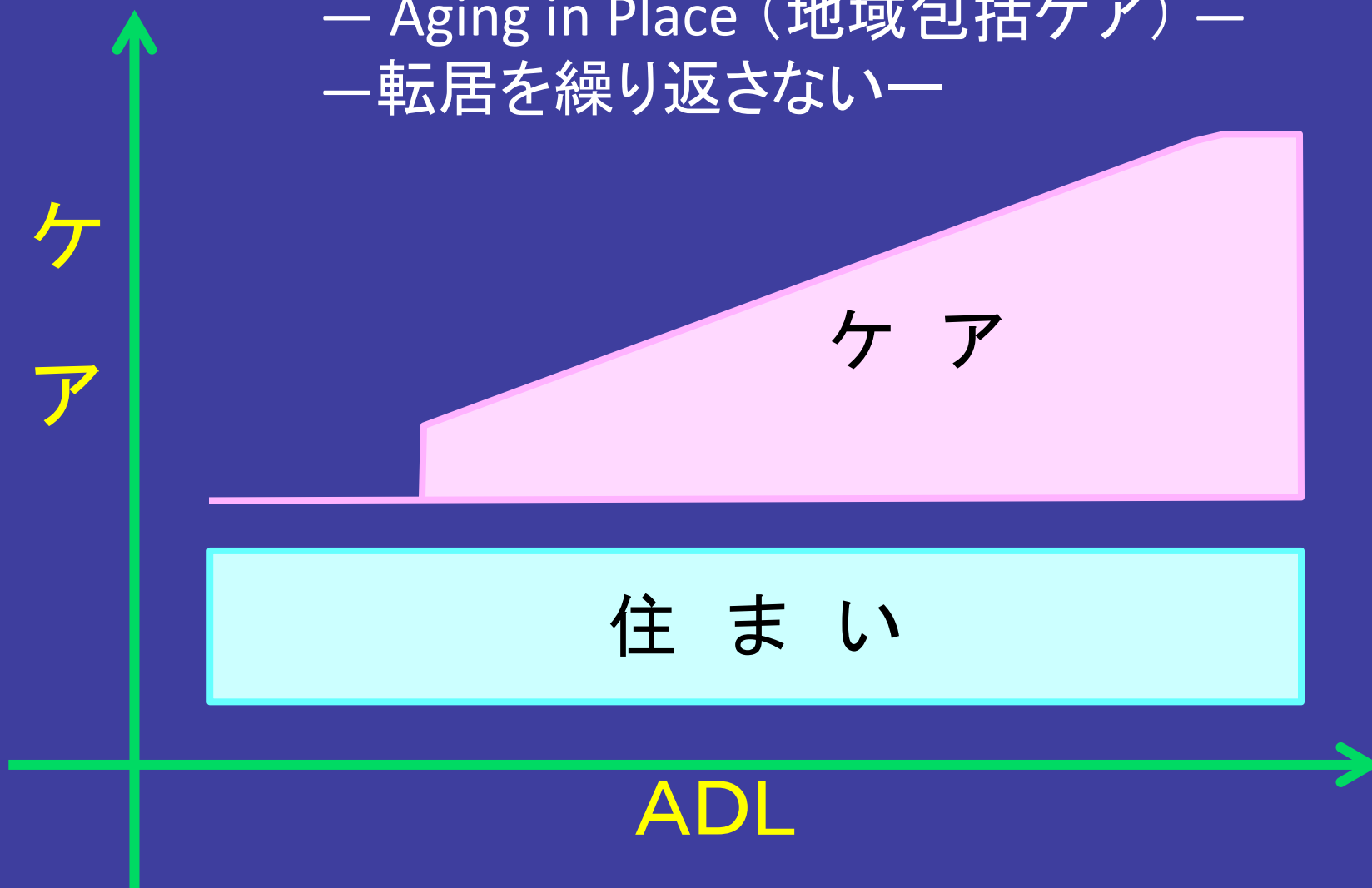
要介護度5以上の重度入居者増え、ナーシングホーム化へ
50m²の高齢者住宅へ改修への動きが広がる

- **高齢者住宅**

住宅協会が建設、75m²で3LDK、家賃500ユーロ(8万円)
ユマニタス財団(ロッテルダム)のアクロポリスなど

同じ「地域」で「ケア」を変え、増やす

— Aging in Place (地域包括ケア) —
— 転居を繰り返さない —

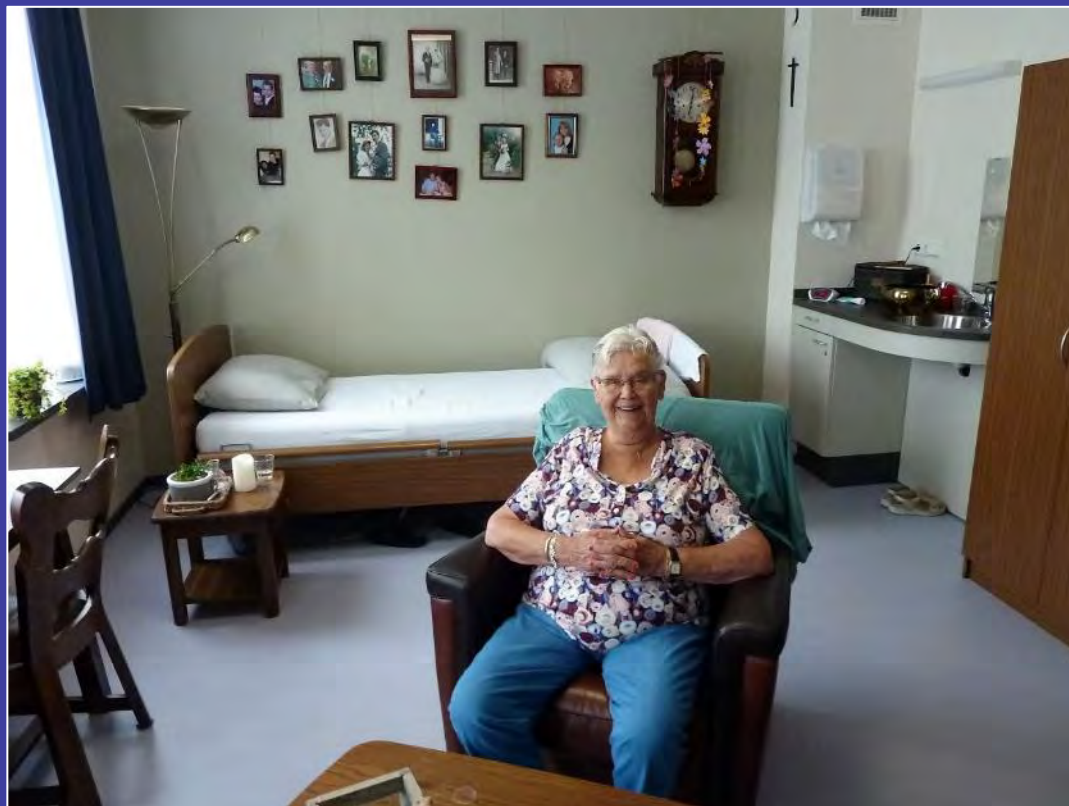


街を再現したナーシングホーム 「リートフェルト」(ロッテルダム)



居室や外観などそれぞれ異なる
集合住宅（ナーシングホーム）
中庭の草花は自宅の延長で、街並み
を再現させた

街を再現したナーシングホーム「リートフェルト」



ソファでくつろぐ入居者
自宅の部屋と変わらない作り

- アルフォン・アン・デンライン市
- 2015年に開設
- 8人の 19ユニット
- 150人が入居
- 各ユニットに 2人のスタッフ
- 2017年に 37人が死去
全員が施設内で
- 入居費は 2200ユーロ以下

スーパーも美容院もある「集合住宅」、リートフェルト



街中の店舗と同じように
買い物ができる

洒落た美容室は「介護付き住宅」
(ナーシングホーム)に欠かせない



日常生活を再生したナーシングホーム 「Hogeway」(アムステルダム)



- 「認知症村」152人が入居、9年前に病院型施設から転換
- 6～7人×24ユニット、1F＝16ユニット、2F＝8ユニット
- 食品・日用品スーパー、レストラン、美容院、音楽クラブ、料理クラブ

周囲を壁で囲い街並みを人工的に作る。
テーマパーク型の画期的な認知症ケア。

Hogeway (ホグウェイ)



各ユニットが中庭を取り囲む作り。2階からの全景

Hogeway (ホグウェイ)



Hogeway (ホグウェイ)



左上が2階の通路。各ユニットはすべて通路や道路でつながっている

Hogeway (ホグウェイ)



音楽クラブやDIYクラブが
並ぶ通りを入居者が行く

訪問した家族が入居者と散歩する

Hogeway (ホグウェイ)

生野菜や果物、生活用品を扱うスーパー



ワインの隣にオムツが並ぶスーパー



なかなか洒落た内装のレストラン



通りに面した音楽クラブの部屋

Hogeway (ホグウェイ)



玄関ホール。右奥にスーパー、左手前にレストラン

Hogeway (ホグウェイ)



「田園型」の居間

- 認知症ケアの基本は生活歴の把握
 - 同じライフスタイルの人たちが同じユニットで暮らすのが最善
 - 7つのライフスタイルでユニット分け
 - ・ 都会型
 - ・ アート型
 - ・ 田園型
 - ・ インドネシア
 - ・ 労働者型
 - ・ クリスマン型
 - ・ 上流クラス型
- (1602年東インド会社VOC)



「労働者型」の居室

Hogeway (ホグウェイ)

上流家庭のユニットの共用LD



オランダではどこの住宅の水回りも
不思議なほど広い

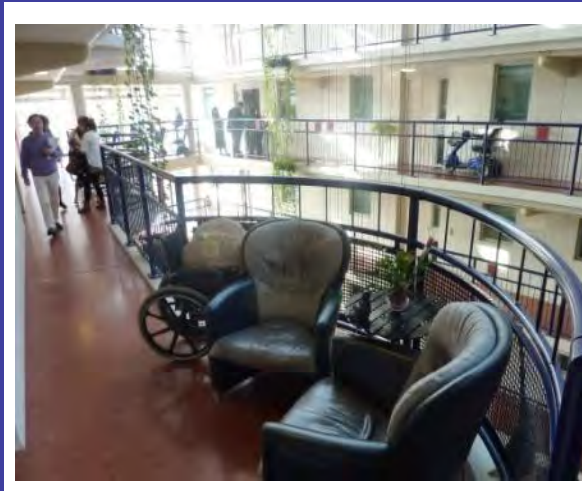
アトリウム(内部公開地)を囲む中層住宅

ユマニタス財団のアクロポリス(ロッテルダム)



■ベッカー前理事長

- 幸福感が大事
- 生活を楽しむ
- YESの文化
- グループ活動
- 衛生よりアート
- ごちゃごちゃ



- 1階は街路 — レストラン、バー、ビリヤード、花屋
食品スーパー、パソコンデスク、美容室
- Social Mall 左右の建物は6階建て、200室の住人

アクロポリスのアトリウム(一階の中央はフードコート)



アクロポリス



アクロポリスの玄関。
その後ろの10階建てのタワーは
認知症高齢者のGH。

ユマニタス財団

- 33カ所で施設、住宅など運営
- 1千室の高齢者住宅
- 3千室のナーシングホーム、ケアホーム
- 事業規模100億円



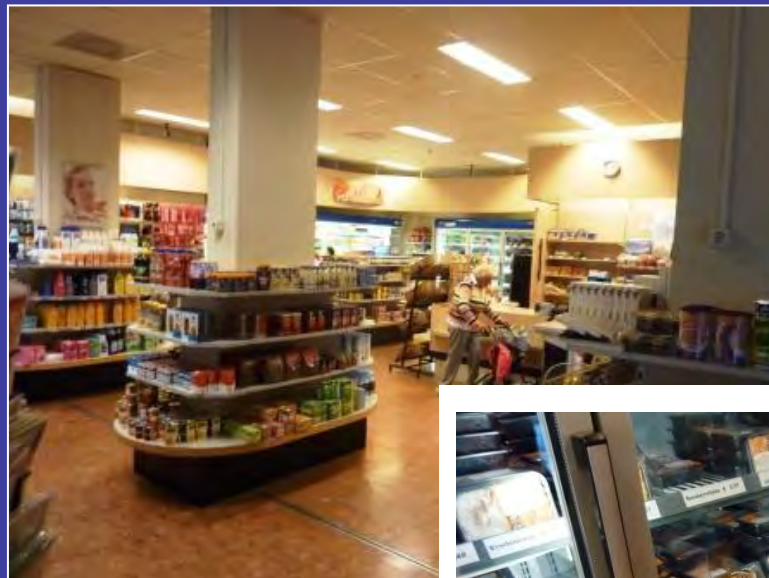
家鴨と山羊が
中高層マンションの間で戯れる

ユマニタス財団のアクロポリス、1階の街路

パソコンが並ぶ



テナントとして入る
食品スーパー



フーズコート



花屋

↑ 一人用の冷凍食品

アクロポリス内の4階の住宅

高齢者住宅の居室内 — 75㎡以上が基準、1人でゆったり暮らす

手前が寝室、
奥がリビングの3LDK



キッチン（右が88歳の住人、
左が訪問者）

リビング



トイレとシャワールーム、
浴槽はない

アクロポリス・タワーの認知症GH居室



アクロポリス・タワーの認知症GH



斬新な半円形アトリウム

オムリング経営のリヒターホフ（フローターブロック市）

半円形アトリウムを住宅が囲む



■代表者のAnky Atzwaさん

- オムリングは6年前に合併
- この建物は2002年に建設
- 28室の住宅
- 50室のケアホーム
全て同じ75㎡
- 3つの考え
 - ① 温かく接する
 - ② 独立性を尊重
 - ③ 積極性を支援
- GHは14㎡+トイレ(2人用)



カーブを描く斬新な
集合住宅



1階：突き当たりにレストラン、美容院、妊婦健診、デイサービス、
ギャラリー、アトリエ、ランドリー
：認知症者のSmall Scale Women(GH)は3階の端に8室の1ユニット

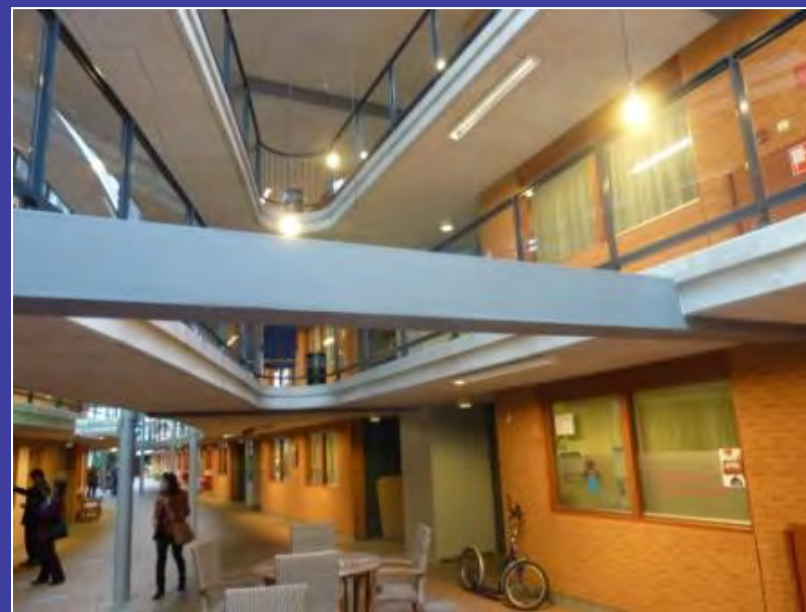
オムリングのリヒターホフ

木の階段を下りる



1階に並ぶ居室

障害者の居室



1階の左右に保育室や工作室が並ぶ

アトリウムで暮らす オランダで広がる複合ケア施設



ユマニスタ財団のロッテルダムにある
「Berweg（ヴェルウェグ）」



「Beweging 3・0（ブベイヒング）」がアムスフォルト市で
運営する「De Lichtenberg（ライテンベルグ）」

住宅やケアホームがアトリウムの左右に建つ。アトリウムには、バイキング形式のレストラン。入居者や訪問してきた家族が集う。Social Mall建物の1階は、美容院やデイサービス、ヘルパーや看護師の詰所、リハビリセンターなどが配置され、時にはバーなども。生活やケアサービスの必需品がそろふ。

集合住宅の1階(ユマニタス財団)

ロッテルダムの Berweg (ヴェルヴェグ)



アトリウムのバー



ヴェルヴェグの認知症デイ

狭い2室を統合し 45m²に Leo Polak (アムステルダム) のケアホーム

男性のリビング
右に改修前の壁



男性のキッチン



- 72年開設、05年に改修
- 10階建てのケアホーム
- 260室から130室に改修
- 運営会社は Woonzorg Netherland

寝室正面が改修前の壁



ソファに座る男性



3室を1室に統合、施設から住宅へ — 50年前の施設をGHに大改装 —

ユマニタス財団の「ヤンメルテンス」(ロッテルダム)

- 1964年にユマニタス初の施設
 - ▶ 353室、14m²
- 1988年に改装
 - ▶ 3室を1室に、162室
- 2007年に半分をグループホームに改装
 - ▶ 2、3、4、5階に7人入居の4ユニット＝28室
 - ▶ 20～25m²
- 1988年に共生型へ
 - ▶ 健康人、要介護者、障害者を3分の1ずつ入居



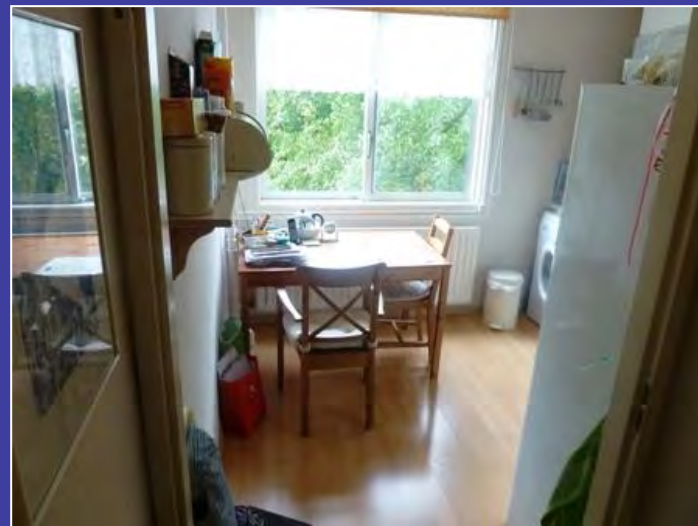
左半分が認知症グループホーム

「ヤンメルテンス」 105号室のフリックさん(健康人)の部屋

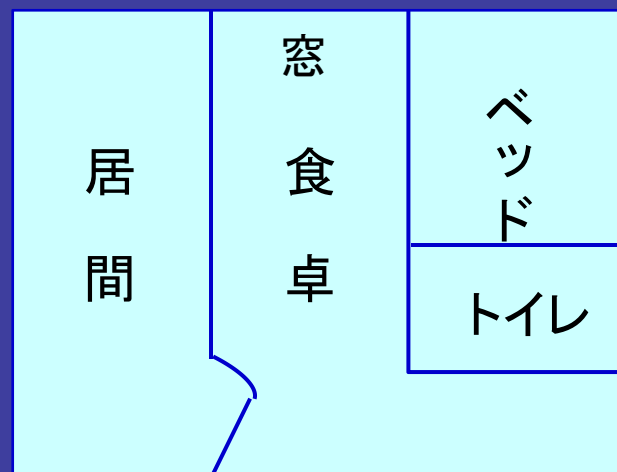
居間



食卓



居間

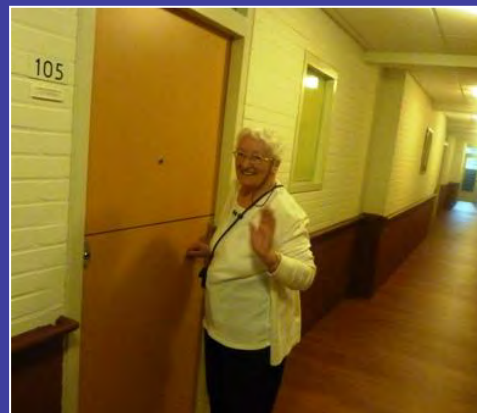
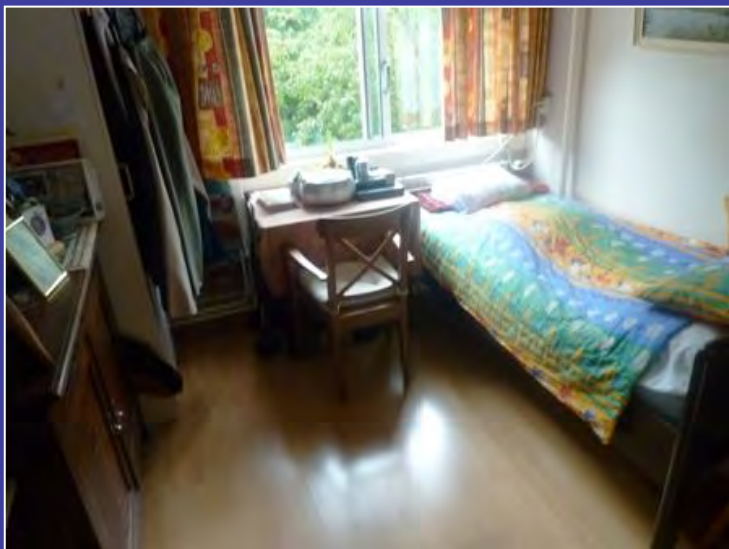


廊下、105号室

「ヤンメルテンス」

105号室のフリックさん(健康人)の部屋

ベッドルーム



ドアの前でフリックさん

- フリックさん(93歳)
- 元英語教師
- 家賃460€
総費用700€
- 「1人暮らしなので
安全を求めて
入居した」

トイレ、洗面所



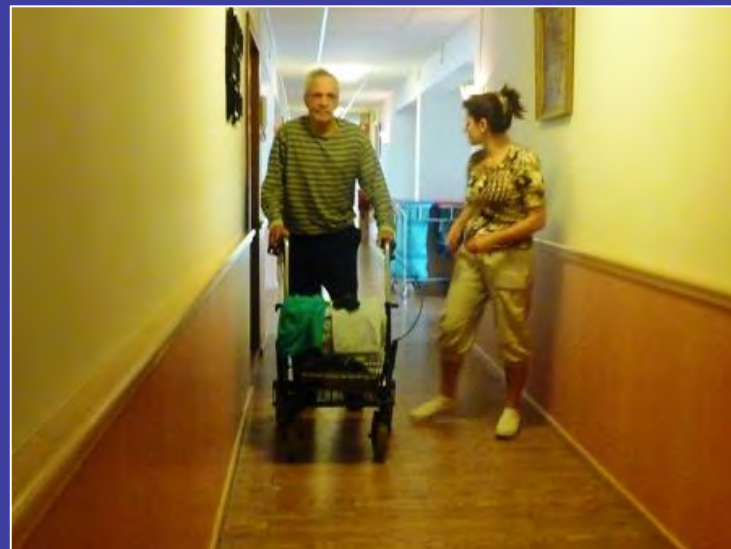
裏庭

改修して認知症グループホームを新設 7人で共同生活 「ヤンメルテンス」

グループホームの部屋



グループホームの部屋



グループホーム入居者のLDグループホームの廊下で

「地域包括ケア」のモデル

地域密着のプライマリケアセンター（アルメール市）

アルメールの健康センター



アルメールの住宅



干拓直後の新都市（海拔下6m）

1976年	0人
2001年	15万人
2010年	19万人 (高齢化率9%)
2015年	22.5万人

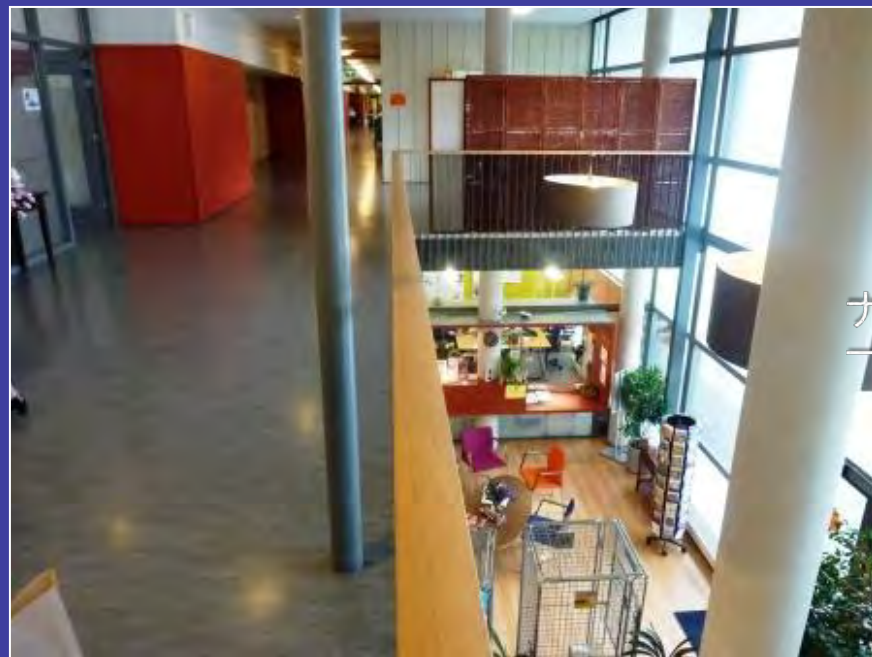
(人口)

＜健康センター・プライマリケアセンター＞
Zorggroep が全市で19センターを運営
Archipiセンター(1万2千人)

- 住民健診、相談
- 特養(ナースィングホーム)＝19人
- 認知症GH 7人×6ユニット＝42人
- 障害者向けのアトリエ
- レストラン、ビリヤード、アトリエ

Archiplのプライマリケアセンター

中庭をはさんで左右にGH



2階に特養、1階に保健コー
ナ



グリーンヤードもある



1階のレストラン、住民の誰もが
利用

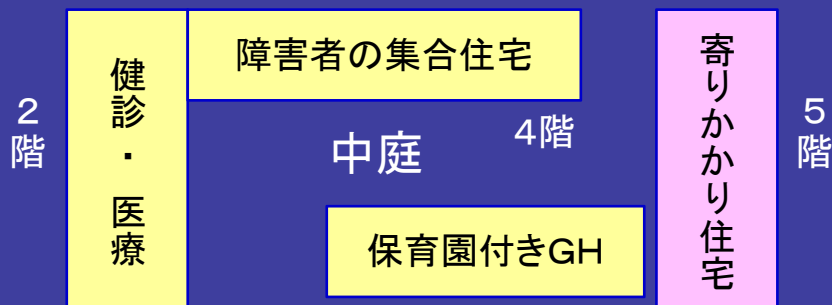
障害者、保育園、健診 = プライマリケアセンター

アルメール市のカストロバルバ地区



正面から。左端は別法人の「寄りかかり住宅」

- 2010年に開設
- 住民7400人を対象
- 24人の認知症者
- 31人の障害者(身体・精神)が入居
- レストラン、歯医者、美容室
- 予防、健康診断
- 運営は Zorggroep
- 「家庭医が指揮者」(老人専門医)



カストロバルバ地区のプライマリケアセンター

中庭を囲むように建物を配置



中庭を散策する
入居者たち



左が集合住宅、右が保育園
正面の「寄りかかり住宅」は別法人

職員と車いす入居者

カストロバルバ地区のプライマリケアセンター

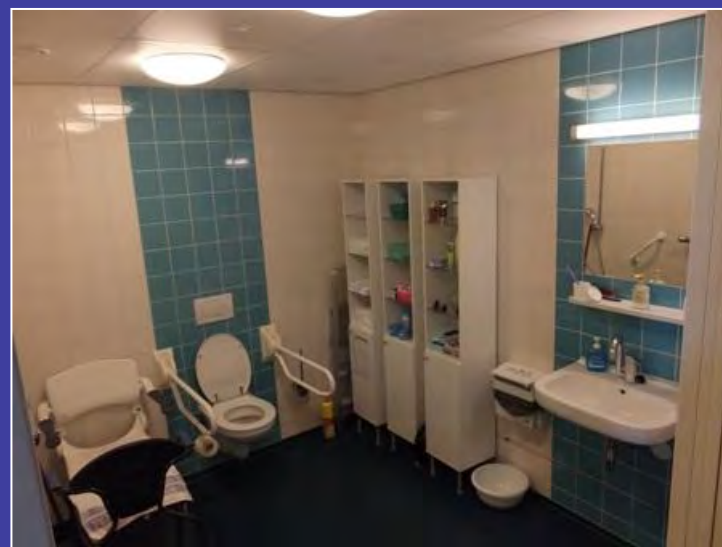
集合住宅の入居者たち

集合住宅の3階に済む元技術者



2階の食堂

3階の廊下に並ぶ
入居者の車いす



トイレや洗面のスペースは
車いすで使えるように広い

カストロバルバ地区のプライマリケアセンター

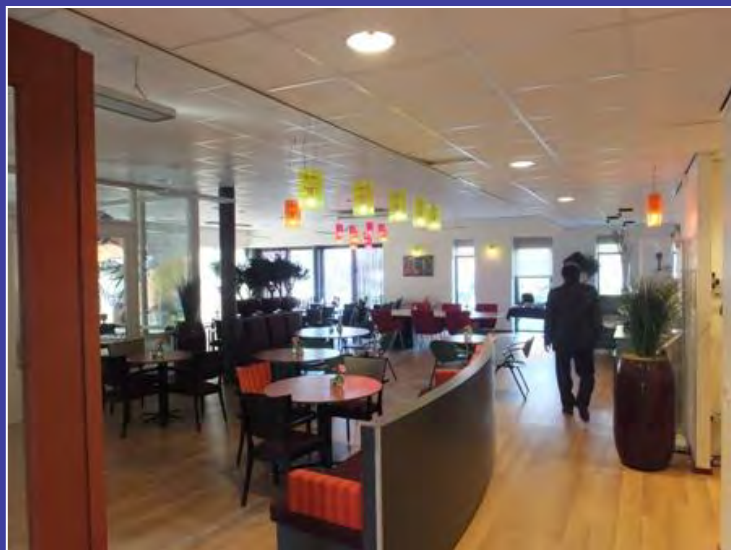
赤ん坊から老人まで地域住民が通う

レストラン



乳児健診に来た親子

レストランの内部



機能訓練室

カストロバルバ地区のプライマリケアセンター

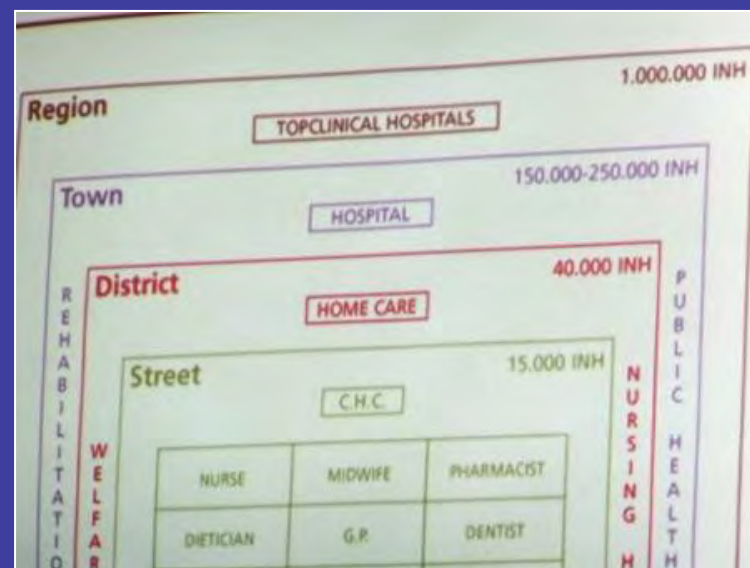
保育園を併設し、父母が送りに

子供を送りに来た親たち



保育園の外観
高齢者とは別の出入口

保育園の内部



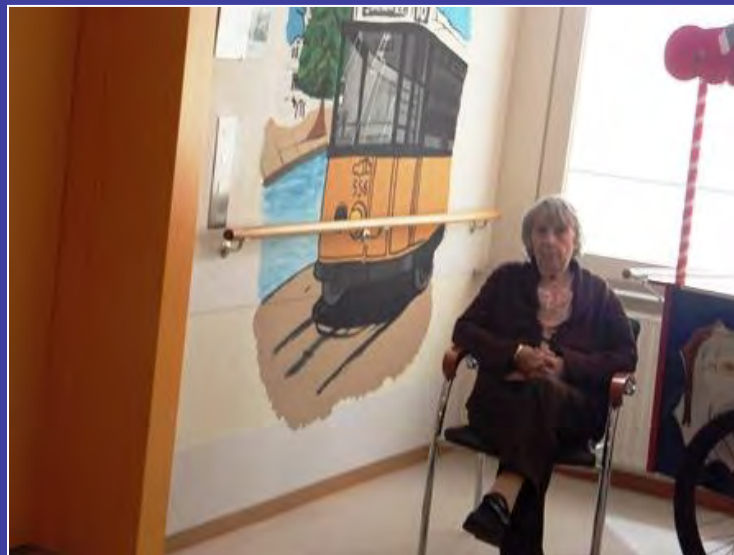
中心地からの距離に応じて
サービスを計画的に配置

廊下は街のストリート ⇒ 壁絵で再現 「ホフステー」(ロッテルダム)



「窓辺」の前を歩く入居者夫婦

多くの壁絵で街並みを再現 「ホフステー」(ロッテルダム)



日常生活を描いた壁絵が多い。「これまでの暮らしを続けよう」という考え方の表れだ。

認知症デイサービスに変身した農家

畑と動物に囲まれて、利用者は普通の暮らし

ゾルフ・バウテンランド（ナイケルク市）

建物の外には畑と馬



経営する夫婦（50歳、40歳）



「牛を100頭飼育するのと同じ
高収入を介護保険から得られる」



デイサービスで自然にくつろぐ利用者たち

- 8年前に農業をやめてケア事業に転換。60人の利用者
- 1日平均28人、4部屋を使う
- 「認知症者は、仲間が集まると自分の役割が見出せる」
- Beweging 3.0 と連携し、収入の20%払う。医療と介護のプロ4人が来てくれる

ゾルフ・バウテンランド

一枚の毛布を分け合う仲良し



外に出てくつろぐ利用者たち



牛や馬、鶏、山羊など多くの家畜がいる



男性の利用者が目立つ

ゾルフ・バウテンランド



経営者の自宅がすぐ隣に

フライパンをふく男性
利用者たちは調理やその後片付けに関わる
認知症ケアには、「社会の中での役割」が重要
普通の家だからこそ実践できる
日本の「宅老所」に通じること



ワイン農家の認知症デイサービス

「アムステル庭園」(アムステルダム市郊外)

- 農家から認知症、障害者のデイへ08年に転換。夫妻の思惑が一致妻「ワインを作りたいかった」夫「ケア事業をぜひ」
- 認知症者15人、障害者5人が毎日来る。ケアスタッフは3人
- 家庭医が15人を常にウォッチ
- ぶどう畑、いちご畑でストレス解消
- 2500本のワイン作り
認知症者がビン詰めを
- 「全国で農家デイは1100ヶ所ある」



ワイン農家夫妻の様子を示す入口の案内板

ワイン農家の認知症デイサービス

ぶどう畑を案内する認知症者



デイの利用者たち

デイルームの前はテラス



散歩から帰る利用者たち

コンサルから起業

「大地の上」(ブリエル市)



サイロを改造しデイルームに

大地の上



豚小屋の前で認知症の利用者(手前)とモンテニーさん

大地の上



イチゴを摘む利用者(右)とスタッフ

大地の上



手作りのウサギ小屋の前でモンテニーさん

大地の上



作業所で指示を受けながら鳥の巣を作る利用者(右)

大地の上

食卓



大地の上



昼食前、テーブルクロスを整える認知症の女性

「農業ケア」は10年で3倍の1400力所に
全国団体のFLZが品質認証ラベルを配布



FLZが農家に出す「品質保証」のワッペン